

# LINEみらい財団の 情報モラル教育活動について

一般財団法人LINEみらい財団

# Contents

1. LINEが情報モラル教育に取り組んできた理由
2. 「LINEみらい財団」について
3. LINEみらい財団の「情報モラル教育活動」
4. 教育現場における変化
5. 変化に対応した新たな情報モラル教育
6. 今後の予定等

# 1. LINEが情報モラル教育に取り組んできた理由

LINEが提供するサービスユーザーは、約9300万人(人口の約70%) おり、LINEはサービス提供者として社会課題へ対応する責任がある。

サービス提供者としての責任

社会課題への対応

## 2. 「LINEみらい財団」について

より良い未来のデジタル社会を目指し、子どもたちのデジタルリテラシー向上を果たすために

LINE株式会社は、2012年より青少年のインターネット利用環境の整備に取り組み、学校や企業、自治体、政府機関などと協力し合いながら、主に情報モラル教育活動を展開してまいりました。2019年には、プログラミング教育にも着手し、子どもたちがデジタル社会で生きる力を養うことを支援しています。

「LINEみらい財団」は、これら一連の教育活動から得られた知見やノウハウを、LINE個社のCSR活動に留まらず広く社会に還元し、より広域的・永続的に活動するため設立されました。現在はLINEみらい財団により活動を行っております。

# LINE みらい財団

- **名 称** 一般財団法人LINEみらい財団
- **設 立** 2019年12月20日
- **所在地** 〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目6番1号 四谷タワー23階
- **理事長** 奥出 直人（慶應義塾大学名誉教授）

### 3. LINEみらい財団の「情報モラル教育活動」

教材開発

出前授業

調査・研究

教育機関との取  
り組み

### 3. LINEみらい財団の「情報モラル教育活動」

- 講師を派遣するワークショップ授業・講演活動（現在はオンライン対応）

2012年より青少年のインターネット利用環境の整備に取り組み、現在は一般財団法人LINEみらい財団において、CSR活動の一環として学校や企業、行政機関などと連携しながら、情報モラル教育を実施しています。

#### ■ 学校等での出前授業

- 全国の学校や自治体からの申し込みを受け付けてLINEが講師を派遣するワークショップ授業・講演活動等を 2012年より全国で開始し、これまでに累計で約10,000回以上実施しています。（2022年実績：1,062回実施）



# 3. LINEみらい財団の「情報モラル教育活動」 - 教育機関との取り組み



## 4. 教育現場における変化

新型コロナウイルス感染症拡大による教育のオンライン移行

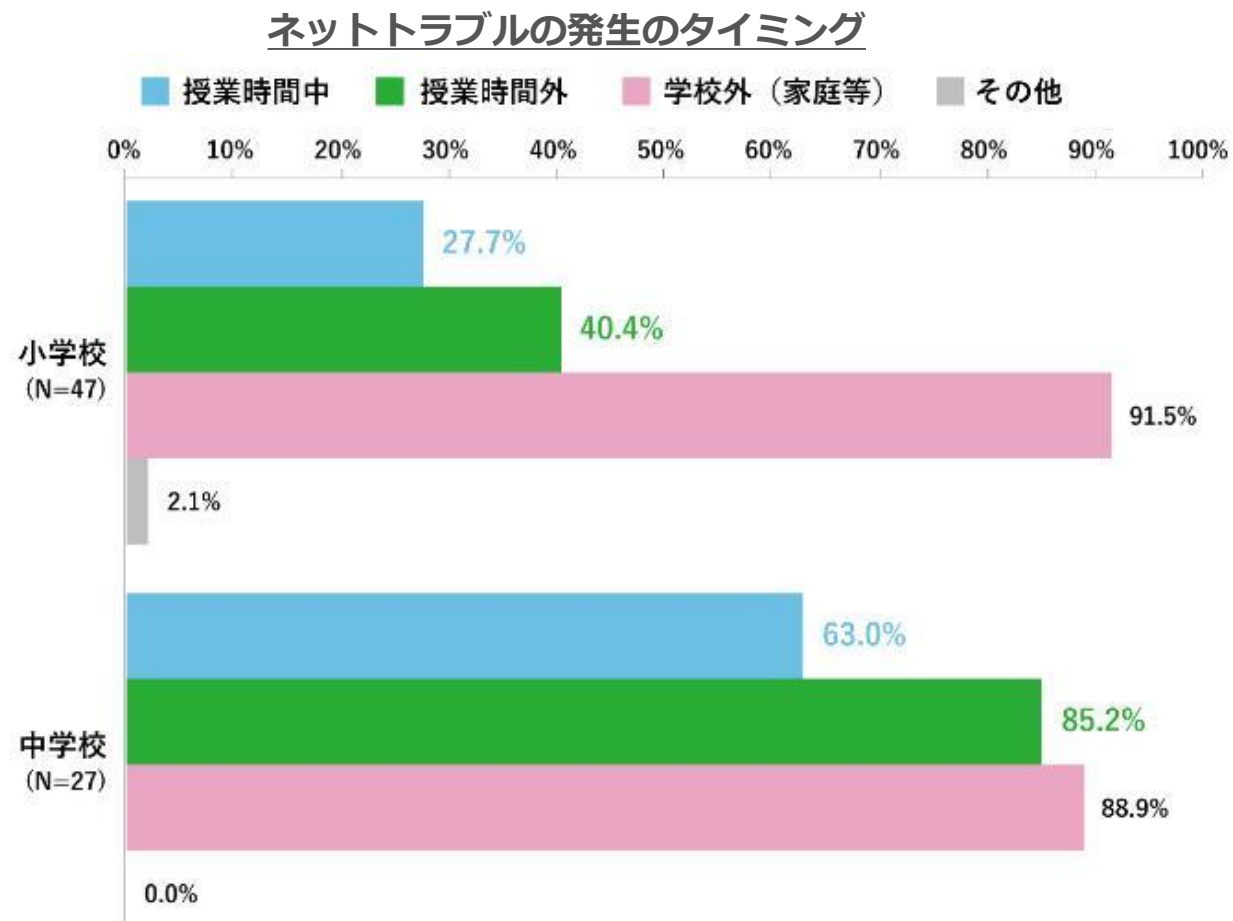


GIGAスクール構想の実施前倒しで、1人1台端末での学びが本格化



## 4. 教育現場における変化 - ネットトラブル

ネットトラブルは校内でも発生するように（家庭の問題だけでなく学校の問題に）



## 4. 教育現場における変化

### - 現在の教育現場に沿った情報モラル教育へのニーズが高まっている

- ▶ 新型コロナウイルス感染症拡大による教育のオンライン移行
- ▶ GIGAスクール構想の実施前倒しで、1人1台端末での学びが本格化
- ▶ ネットトラブルは学校内でも問題に

**ICTやインターネットが学習の必須ツールになる時代において、  
情報モラル教育もそれに沿った対応が必要**

(主には情報モラル教育・情報リテラシー教育、情報活用能力の育成、デジタルシチズンシップ等)

**教育現場には様々なニーズがあるものの、  
(子供たちのネットトラブル回避に関する指導、GIGAスクール端末の利活用など)**

**現実的には学びの時間の確保、  
教えることのできる指導者の育成等がまだまだ追いついていない現状がある。**

## 4. 教育現場における変化

### - 教育現場におけるニーズ・課題例

#### 【1】現場が求めるテーマ（取り組むべき課題）は様々

- ・トラブルベースから活用ベース。コミュニケーショントラブル、セキュリティへの意識、消費者教育・性被害対策・ネチケツト・デジタルシチズンシップと様々

#### 【2】時間の確保

- ・教科化されていない取組みを現場に持ち込む難しさ

#### 【3】指導者不足

- ・まずは教員の育成が先などの声をきくこともある

## 5. 変化に対応した新たな情報モラル教育

GIGAスクール構想によって、学校現場でのICT教育に対するニーズが高まっており、これまでの教材を現在の教育現場のニーズに合わせてアップデートしました。

- **新たな教材開発：GIGAワークブック（2022年7月～）**
  - ・ 子どもたちがネットの特性や問題点を理解し、トラブルが起きた場合の対応を自ら考えることができるように「活用型情報モラル教材」を無償提供しています。



# 5. 変化に対応した新たな情報モラル教育 - GIGAワークブックのポイント

## ポイント① ✓ 情報活用と情報モラルをセットで学ぶ

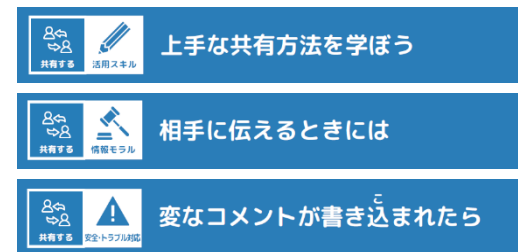
- これまでの情報モラル教育は、情報のリスクのみが強調されることが多くありました。本教材では、リスクだけでなく、上手な情報活用と情報モラルをセットにして学ぶことができます。

## ポイント② ✓ 短時間でも教育が可能

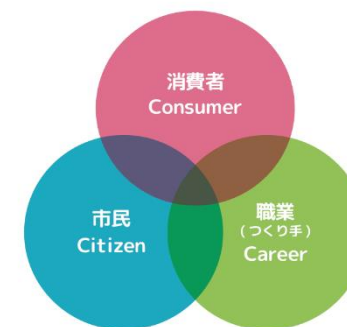
- 情報モラル教育は、学級活動や道徳、総合的な学習の時間などを使い、45分で実施するケースが一般的です。本教材は45分の実施に加えて、15分でICTの活用場面を学ぶことができます。

## ポイント③ ✓ 3C（消費者、市民、つくり手）の視点

- よき消費者（Consumer） リスクを回避し上手に使う
- よき市民（Citizen） 情報社会に参画する
- よきつくり手（Career） 新しい情報社会をつくる



ICTの活用場面（8場面）



# 5. 変化に対応した新たな情報モラル教育 - 自治体における活用事例

## ■ GIGAワークブックの自治体における活用事例

- 各自治体の調査研究結果や情報モラル育成目標などの要素を追加した「GIGAワークブック自治体オリジナル版」を希望自治体に無償提供しております。（2県2市に提供(2023年1月現在) ※23年度からの導入を含めると、約40自治体で導入決定）
- 授業利用に向けて教員向け研修も開始

### 兵庫県



ホーム > 事務局各課 > 教育企画課 > 教育の情報化サイト > 情報モラル教育の推進

【NEW】 活用型情報モラル教材「ひょうごGIGAワークブック」の作成(令和4年11月1日更新)



「情報モラル」と「情報活用」の育成や向上を図るため、一般財団法人LINEみらい財団と連携し、活用型情報モラル教材「ひょうごGIGAワークブック」を作成しました。

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/morallink/index.html>

### 鎌倉市

#### 活用型情報モラル教材「GIGAワークブックかまくら」

鎌倉市教育委員会と深沢小学校は、一般財団法人LINEみらい財団（東京都新宿区）と連携し、「情報モラル」と「情報活用能力」の育成や向上を図るための教材「GIGAワークブックかまくら」を作成しました。



- ◆ GIGAワークブックかまくら（ピギナー版）※主に小1～3年生向け
- ◆ GIGAワークブックかまくら（スタンダード版）※主に小4～6年生向け

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyouiku-shidou/giga-workbook.html>

## 6. 今後の予定等

- これまでに培ったノウハウを活かし、和歌山県警察本部及び和歌山県教育委員会と連携し、自画撮り被害をテーマとした研究・教材開発を行っており、今後GIGAワークブックにコンテンツを追加する予定です。
- 連携自治体における教材（GIGAワークブック）の導入に関する効果を検証するため、今後、教材活用による子供たちや教員の意識変化等の調査を行う予定です。
- これまでの取組で得られたノウハウは、LINEみらい財団単独の活動にとどまることなく他社・他団体と連携を図るほか、学校現場だけではなく家庭が抱えるネットリテラシーの課題に対しても応用を目指していきます。